

命をいただく

私は生まれてきて、どのくらい食事を頂いてきたのでしょうか。その食事の中から、肉・魚・野菜・穀物・果物など、どれほどの生命を頂いてきたのでしょうか。時々ではありますが、自分は多くの生命を犠牲にして生きている存在であることを考えさせられます。

妙好人と言われる榎本栄一さんは「私は今日まで、海と大地の無数の生き物を食べてきた。私の罪深さは底知れず」と語っています。法語カレンダーの中には『ご飯・お魚・お野菜 合掌して頂く命』とありました。

必ず誰もが食事を摂り、多くの命を頂いています。食することは私たちが生きていく為に仕方のないことですが、食べられる生命に手を合わせる気持ちを忘れてはいけません。

親鸞聖人は「殺生をせずには生きていけない私たちは罪人である」と諭しています。私たちが救われる道は、阿弥陀様の本願力に頼るしかないのです。この世で共に生きる生命へ、報恩感謝の生活を送っていききたいものです。

